

2021/06/28

ひかりとたねの保育園

保育講座 資料

① おもてなしの心

「おもてなし」という言葉には「よそおい」「しつらえ」「立ち居振る舞い」この3つが揃いおもてなしが完成すると言われています。子どもたちが毎日生活する空間を心地よいものにするために必要な行動（動作）をします。（整理整頓、スタッフの話し方、室内の動き、季節を感じる装飾等）そのような空間で子どもたちは「感性」を培っていきます。子どもたちが真似してくれることを願って、子どもも保護者もお迎えできる室礼を心がけています。

② 異年齢児保育

私たちの異年齢保育は「異年齢保育=異発達の集団」と理解し、発達の近い子ども集団との生活から、発達の違う子どもたちの憧れや敬う心、またその存在を認め合いながら生活することが、ひかりとたねの保育園にできる今の社会や未来を担う子どもたちの「生きる力、人と関わる力」に繋がりと考えています。

③ アイデアが生きる保育現場

・ハーブを育てる過程を楽しみながら、香りを科学するためにハーブティーを飲む

・海に行って子どもの姿や発見、言葉を聞きながら保育の方向性を決めていく（ドキュメンテーションで活動を見える化することを前提として進める）

（例） 生き物をとる→飼いたい→飼ってみた→死んだ→なぜ死んだ（考察）→どうしたら生きることが出来た？→またやってみる→どうだった？（続く…）

・使い捨てカメラを渡して、子どもが気になったものを子どもが撮って、ギャラリー風に飾る（アイデアが先行したが、色をテーマにすることで発見を楽しみ、認識につなげることをねらいとした）

◎スタッフがやりたいことをするだけでは当然保育の内容としては不十分です。ねらいと意図は必ずあります。アイデアが先行してしまっても、後からその活動における発達課題や有効性を紐づけして保育の展開に落とし込んでいきます。

④ 毎年の保育テーマ、スタッフのテーマ

・その年ごとに保育のテーマ、スタッフのテーマを決めています。

テーマに沿った保育を考えることで毎年違った保育展開が期待できますし、新しいアイデアを取り込む（考える）きっかけになります。スタッフのテーマは年度末の自己評価や自己目標達成シートなどをもとに取り組んでいくテーマを決めていきます。テーマがあることで何を意識すればいいのかが明確になり、行動指針に繋がります。

令和2年度	保育テーマ	オリパラリンピックを楽しく知ってみよう
	スタッフテーマ	輪楽笑（リラックス） スタッフの輪を大切に楽しく笑顔で仕事をしよう！

令和3年度	保育テーマ	オリパラリンピックを楽しく知ってみよう
	スタッフテーマ	New beginning everyone is a planner

令和3年度から横浜市金沢八景保育園がひかりとたねの保育園に名称が変更になりました。新しい始まりであり、ひとり一人がアイデアを出し合って新しいことに挑戦しよう！

⑤ 選択活動

保育の基本活動は3つ。園庭、室内、散歩や季節の制作、絵画など

毎週1週間の見通しが持てるように子どもたちに予定を示します。毎朝子どもたちは自分の顔写真の付いたマグネットを活動別に分かれたホワイトボードに意思表示として貼っていきます。日中やりたい活動を自ら選ぶことが出来ます。当然変更も可能です。

ただし、散歩や制作などは、必ずやる活動かやりたい子だけがやる活動なのか保育士のねらいや願い（月案、週案）によって決められ伝えられます。例えば散歩が火水木の3日間の設定で必ず行ってください。一日に行ける人数は12人までです。という約束事があれば子どもたちはどこかの曜日を必ず選択しなければなりません。月曜日の朝の会や、前の週の週末に選択するように伝えられ子どもたちは考えます。

「いつ行こうか？」「○○ちゃんはいつ行く？」「私、水曜日はお休みの日だから火曜日か木曜日にしなくちゃ」と。

火曜日に行きたいという子が集中したとしましょう。子どもたちはみんなで話し合います。

「誰か譲ってくれる？」「他の日に移ってもいい人？」など、みんなで決めます。

大切にしたいことは、子ども自身が考えること。子ども同士で、相手の意見を聞いて受け入れたり、自分の気持ちを表したりして協調性や社会性を身に付けることで子ども社会をつ

くること。見通しをもって過ごすことなどです。これが、異年齢間で行われますので、年下の児に譲ったり、意見を自分で言えない子に優しく聞いてくれたりして代弁してくれる年上児の姿も見られます。5歳が理解し、4歳が育つ。3歳はまねぶ（学ぶ）だから、異年齢が生きてくるのです。

年長クラスになると、この火水木の散歩の予定に木曜日はソーラン節の練習など年長児が必ずやる活動が重なってきたりもします。ということは、木曜日は散歩の選択が出来ないということになります。こういった活動の選択を保育士は仕掛けていき、見通しを持つことや自分で考えるということのクセを日々の中に落とし込んでいます。

室内はゾーンと呼ばれる設定がいくつか用意されています。（以前はコーナー）集中ゾーン、サイエンスゾーン、アートゾーン。子どもたちはそのゾーンで好きな遊びに没頭できるように環境の設定がなされています。〇〇コーナーと呼ばれるようにそこにいつもあっていつでも遊べる環境も用意しています。また、それは遊びの場所を固定するものではなく場所が移って行ったり、組み合わせるものが変化して行ったりします。何と何を組み合わせるかは子どもたちの発想の自由ですので、ここで〇〇をきなさいということもおおらかにしか決めていません。保育士はその状況を読み取ることが仕事です。保育者の考えやこだわりよりも子どもの今の状態を把握し、子どもの発達に寄り添い環境設定を行うことを大切にしています。なぜ、ここでその遊びをしているのか、本人にとって何が都合良かったのか、保育士も自分で考えます。場所を決めて約束を守って遊ぶということも重要でしょう。子どもが遊びに没頭できる環境を用意することも重要なのです。

もう一つ、室内で遊ぶものはチケットで交換するという仕組みがあります。幼児は一週間で10枚与えられます。折り紙、色画用紙、紙コップ、ストロー、塗り絵などが交換できます。いつ使うかは自由です。どう使うかも自由です。チケットがなくなれば終わりです。自分で考えます。「友だちが使い切っちゃたので私のをあげる」というのもOKですし、貸してあげるという感覚、認識がある子どもはそのような使い方をしている場合もあります。

⑥ 統合保育（インテグレーション）

・障害や個別支援が必要な子どもに対し、園生活が地域社会参加の第一歩として、健全な発達が得られるようノーマライゼーションの考えに基づき、障害を持っている子どもの受け入れを行いながら「共に育ち、分かち合える大切さ」が実感できる包括保育を行っています。現代社会におけるLGBTや様々な多様性を受け入れる基礎「みんな違って、みんないいんだよ」と思える心を育てていければと思っています。

⑦ 働きやすい環境

- ・早番の早退勤務/遅番の遅刻勤務 希望による休みの申請 産休/育休 正規職からパート職への切り替え等
- ・夏休み 6月~9月の間で5日間 新卒4月採用有給は10日間あります。
- ・毎月のシフトでは、休み希望（常識の範囲内）を受け付けます。

就職先を考える際に重要視するところは、その園の雰囲気だと聞きます。是非、一度ひかりとたねの保育園に遊びに来てください。上記の説明も詳しくお伝えできると思います。雰囲気は感覚で感じる場所も多いと思います。感覚やセンス、感性といったキーワードは当園では大切にしているところの一つです。是非、感じてもらえたらと思います。